

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業
審査要領

第 1 審査委員会

1 審査委員会の設置

本事業の企画提案書の審査及び選定のため、消費・安全局において、「安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業審査委員会」（以下「審査委員会」という。）を設置する。

2 審査体制

審査委員会は、次の条件を満たす者のうち消費・安全局長が審査を依頼する外部専門家及び担当官を委員とする。

- ① 公募に係る企画提案書を審査するための十分な能力を有し、公正かつ中立な立場から審査を行うことができる者であること。
- ② その氏名、所属及び研究論文等の実績並びにその者が行う審査結果の公表について、あらかじめ同意している者であること。

3 審査委員会の委員の任務等

- (1) 審査委員会の委員は、消費・安全局長が依頼した試験研究課題について、提案のあった企画提案書を審査するものとする。ただし、審査に当たっては、公正で透明な審査を行う観点から、原則として利害関係者が加わらないようにするとともに、やむを得ず利害関係者が加わる場合には、その理由を明確にした上で、消費・安全局長の了承を得るものとする。

- (2) 利害関係者の範囲は、次に定めるとおりとする。

ア 当該試験研究課題の中で課題担当者となっている場合

イ 当該試験研究課題の課題担当者と、同一の民間企業、大学、独立行政法人等の研究機関において同一の部署、学科、研究所等に所属する、又は以前所属しており、異動若しくは離職から2年を経過していない場合

ウ 当該試験研究課題の課題担当者と親族関係にある場合

エ 当該試験研究課題の課題担当者と直接的な競争関係にある場合

オ 当該試験研究課題の課題担当者と緊密な共同研究を行う関係にある場合

カ 当該試験研究課題の課題担当者と密接な師弟関係又は直接的な雇用関係にある場合

キ その他消費・安全局長が公正な判断を行うに当たって適当ではないと判断した場合

- (3) 審査委員会の委員は、試験研究課題の審査により知り得た情報について、消費・

安全局長が認める場合を除き、外部に漏らし、又は自身の研究若しくは業務に利用してはならない。委員の職を退いた後も、同様とする。

4 意見の聴取等

審査委員会は、審査に必要な意見を聴取する、又は試験研究課題の説明を受けるため、農林水産省関係部局の職員又は試験研究課題に係る企画提案書の提案者の参加を求めることができるものとする。

5 庶務

審査委員会に関する庶務は、食品安全科学室が行う。

第2 審査の規準等

1 審査の規準

審査の規準は別表のとおりとする。

2 企画提案書の審査及び選定

- (1) 審査委員会は、審査の規準に基づいて審査を行い、別紙の審査票を作成した上で、企画提案書を選定する。また、必要に応じて試験研究実施に当たっての留意事項を付することができる。
- (2) 審査委員会が企画提案書を選定したときは、(1)の審査の結果を食品安全科学室から消費・安全局長及び農林水産技術会議事務局長に報告する。
- (3) 審査の公平を確保するため、審査委員会での検討経緯の概要は、記録に残すものとする。ただし、審査の過程及びその記録は非公開とする。

第3 審査結果の通知及び公表

消費・安全局長は、第2の2(2)の報告を受けたときは、当該報告の内容を確認の上、審査結果を選定された企画提案書の提案者（以下「契約候補者」という。）に通知し、契約候補者を農林水産省ホームページで公表する。

なお、審査結果を契約候補者に通知する際には、必要に応じて、試験研究実施に当たっての留意事項を付することができる。

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業
審査規準

審査委員会は、審査を担当する試験研究課題に対して応募があった各企画提案書の内容に対して、下表の審査項目ごとにそれぞれの審査規準に基づき評価を行い、採点する。

評価の結果に基づく企画提案書の選定の手順は以下のとおりとする。

- ① 審査項目Ⅰ若しくはⅡのいずれかにD評価があった企画提案書、又は総得点が審査点の満点の50%を超えない企画提案書については、審査委員会での協議により不採択とすることができる。
- ② 過半数の審査委員が1位とした企画提案書を選定する。
- ③ ②により企画提案書が選定されない場合は、総得点が最も多い企画提案書を選定する。
- ④ ③により企画提案書が選定されない場合は、A評価が最も多い企画提案書を選定する。
- ⑤ ④により企画提案書が選定されない場合は、審査委員会での協議により企画提案書を選定する。

審査項目	審査規準（配点）	
Ⅰ 趣旨理解	公募課題の趣旨及び内容を提案者が理解しているか。	A：理解している（13点） B：概ね理解している（10点） C：やや不十分である（6点） D：理解していない（0点）
Ⅱ 提案内容	1. 研究の工程（研究項目、年次計画等）が応募要領に記載された研究内容と一致しているか。	A：一致している（13点） B：概ね一致している（10点） C：やや不十分である（6点） D：乖離している（0点）
	2. 応募要領に記載された目標を達成できる適切な研究実施計画となっているか。	A：適切である（13点） B：概ね適切である（10点） C：やや不十分である（6点） D：適切でない（0点）
	3. 提案された研究方法や期待される研究成果に十分な先導性があるか。	A：十分である（13点） B：概ね十分である（10点） C：やや不十分である（6点） D：不十分である（0点）

Ⅲ 成果利用	1. 提案された研究内容は、実際の行政施策・措置の検討、決定に活用可能な成果が期待されるか。	A : 十分期待できる (8点) B : 概ね期待できる (6点) C : やや期待できない (4点) D : 期待できない (0点)
	2. 提案された研究内容は、合理性(費用・時間)及び再現性の観点から将来的に現場(生産者、食品製造・加工・流通事業者、検査機関等)での導入可能性が高い成果が期待されるか。	A : 十分期待できる (8点) B : 概ね期待できる (6点) C : やや期待できない (4点) D : 期待できない (0点)
Ⅳ 実施体制	1. 研究を遂行する上で適切な人員体制であるか。	
	(1) 人員に十分な能力があるか。	A : 十分である (4点) B : 概ね十分である (3点) C : やや不十分である (2点) D : 適切でない (0点)
	(2) 成果を得るために必要な人員を確保しているか。	A : 確保されている (4点) B : 概ね確保されている (3点) C : やや不十分である (2点) D : 適切でない (0点)
	2. 成果を得るために必要な機器、施設が整備されているか。	A : 整備されている (7点) B : 概ね整備されている (5点) C : やや不十分である (3点) D : 適切でない (0点)
	3. 予算の執行計画が適切か。(人件費が過大でないか、不要な機器の購入の計画がないか等)	A : 適切である (7点) B : 概ね適切である (5点) C : やや適切でない (3点) D : 適切でない (0点)
4. ・ 契約を履行する一環として収集、整理、作成等した一切の情報が、農林水産省が保護を要しないと確認するまでは保護すべき情報として取り扱われることを保障する履行体制を有しているか。 ・ 農林水産省の同意を得て指定した	A : 情報保護を保障するための履行体制が十分にとれている。(5点) B : 若干不十分な点が認められるものの、情報保護には支障がないと考えられる。または、計画等の一部修正で十分対応可能であると考えられる。(3	

	<p>取扱者以外の者に取り扱わせないことを保障する履行体制を有しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 契約締結後に、農林水産省が書面により個別に許可した場合を除き、親会社等、兄弟会社、地域統括会社、ブランド・ライセンサー、フランチャイザー、コンサルタントその他指導、監督、業務支援、助言、監査等を行う者を含む一切の者に対して伝達又は漏えいされないことを保障する履行体制を有しているか。 ・ 契約の履行に必要な情報を取り扱うにふさわしい者であるか。 ・ 契約の履行に必要な若しくは有用な、又は背景となる経歴、知見、資格、業績等を有しているか。 ・ 他の手持ち業務等との関係において、契約の履行に必要な業務所要に対応できる体制にあるか。 	<p>点)</p> <p>C : いずれか又は全てに問題があり、情報管理体制等の大幅な見直しが必要と考えられる。(1点)</p> <p>D : いずれか又は全てに大きな問題があり、情報管理体制の見直し等では対応が困難であると考えられる。(0点)</p>
<p>V ワーク・ライフ・バランス等の推進</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスを推進する企業として、右記((1)～(3))の法律に基づく認定を受けているか。 (注1)</p>	<p>(1) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(平成27年法律第64号。以下「女性活躍推進法」という。)に基づく認定等(えるぼし認定企業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1段階目(2点)^(注2) ・ 2段階目(4点)^(注2) ・ 3段階目(5点) ・ 行動計画(1点)^(注3) <p>(2) 次世代育成支援対策推進法(平成15年法律第120号)に基づく認定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くるみん認定企業(2点) ・ プラチナくるみん認定企業(4点) <p>(3) 青少年の雇用の促進等に関する法律(昭和45年法律第98号)に基づく認定</p>

（注1）（1）～（3）のうち複数の認定等に該当する場合は、最も配点の高い区分により加点を行う。なお、研究グループにより研究を実施する場合は、最も配点の高い区分の認定を有する一の研究機関等の点を加点する（最高5点）。

（注2）労働時間等の働き方に係る基準は満たすこと。

（注3）女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定義務がない事業主（常時雇用する労働者の数が300人以下のもの）に限る（計画期間が満了していない行動計画を策定している場合のみ）。

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業審査票

審査委員名

研究課題名				
研究総括者名				
審査項目	審査規準（配点）	審査結果	コメント	
I 趣旨理解	公募課題の趣旨及び内容を提案者が理解しているか。	A：理解している（13点） B：概ね理解している（10点） C：やや不十分である（6点） D：理解していない（0点）		
II 提案内容	1. 研究の工程（研究項目、年次計画等）が応募要領に記載された研究内容と一致しているか。	A：一致している（13点） B：概ね一致している（10点） C：やや不十分である（6点） D：乖離している（0点）		
	2. 応募要領に記載された目標を達成できる適切な研究実施計画となっているか。	A：適切である（13点） B：概ね適切である（10点） C：やや不十分である（6点） D：適切でない（0点）		
	3. 提案された研究方法や期待される研究成果に十分な先導性があるか。	A：十分である（13点） B：概ね十分である（10点） C：やや不十分である（6点） D：不十分である（0点）		
III 成果利用	1. 提案された研究内容は、実際の行政施策・措置の検討、決定に活用可能な成果が期待されるか。	A：十分期待できる（8点） B：概ね期待できる（6点） C：やや期待できない（4点） D：期待できない（0点）		

	2. 提案された研究内容は、合理性（費用・時間）及び再現性の観点から、将来的に現場（生産者、食品製造・加工・流通事業者、検査機関等）での導入可能性が高い成果が期待されるか。	A：十分期待できる（8点） B：概ね期待できる（6点） C：やや期待できない（4点） D：期待できない（0点）		
IV 実施体制	1. 研究を遂行する上で適切な人員体制であるか。			
	(1) 人員に十分な能力があるか。	A：十分である（4点） B：概ね十分である（3点） C：やや不十分である（2点） D：適切でない（0点）		
	(2) 成果を得るために必要な人員を確保しているか。	A：確保されている（4点） B：概ね確保されている（3点） C：やや不十分である（2点） D：適切でない（0点）		
	2. 成果を得るために必要な機器、施設が整備されているか。	A：整備されている（7点） B：概ね整備されている（5点） C：やや不十分である（3点） D：適切でない（0点）		
	3. 予算の執行計画が適切か。（人件費が過大でないか、不要な機器の購入計画がないか等）	A：適切である（7点） B：概ね適切である（5点） C：やや適切でない（3点） D：適切でない（0点）		
4. ・ 契約を履行する一環として収集、整理、作成等した一切の情報が、農林水産省が保護を要しないと確認するまでは保護すべき情報として取り扱われることを保障する履行体制を有しているか。 ・ 農林水産省の同意を得て指定した取扱者以外の者に取り扱わせない	A：情報保護を保障するための履行体制が十分にとれている（5点） B：若干不十分な点が認められるものの、情報保護には支障がないと考えられる。または、計画等の一部修正で十分対応可能であると考えられる（3点）			

	<p>ことを保障する履行体制を有しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 契約締結後に農林水産省が書面により個別に許可した場合を除き、親会社等、兄弟会社、地域統括会社、ブランド・ライセンサー、フランチャイザー、コンサルタントその他指導、監督、業務支援、助言、監査等を行う者を含む一切の者に対して伝達又は漏えいされないことを保障する履行体制を有しているか。 ・ 契約の履行に必要な情報を取り扱うにふさわしい者であるか。 ・ 契約の履行に必要な若しくは有用な、又は背景となる経歴、知見、資格、業績等を有しているか。 ・ 他の手持ち業務等との関係において、契約の履行に必要な業務所要に対応できる体制にあるか。 	<p>C : いずれか又は全てに大きな問題があり、情報管理体制等の大幅な見直しが必要と考えられる (1点)</p> <p>D : いずれか又は全てに大きな問題があり、情報管理体制の見直し等では対応が困難であると考えられる (0点)</p>		
<p>V ワーク・ライフ・バランス等の推進</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスを推進する企業として、右記 ((1) ~ (3)) の法律に基づく認定を受けているか。(注1)</p>	<p>(1) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(平成27年法律第64号。以下「女性活躍推進法」という。)に基づく認定等(えるぼし認定企業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1段階目(2点)(注2) ・ 2段階目(4点)(注2) ・ 3段階目(5点) ・ 行動計画(1点)(注3) <p>(2) 次世代育成支援対策推進法(平成15年法律第120号)に基づく認定</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・くるみん認定企業（2点） ・プラチナくるみん認定企業（4点） <p>（3）青少年の雇用の促進等に関する法律（昭和45年法律第98号）に基づく認定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユースエール認定（4点） 	
--	--	--

（注1）（1）～（3）のうち複数の認定等に該当する場合は、最も配点の高い区分により加点を行う。なお、研究グループにより研究を実施する場合は、最も配点の高い区分の認定を有する一の研究機関等の点を加点する（最高5点）。

（注2）労働時間等の働き方に係る基準は満たすこと。

（注3）女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定義務がない事業主（常時雇用する労働者の数が300人以下のもの）に限る（計画期間が満了していない行動計画を策定している場合のみ）。